

OPINION

この連載は、海外が日本をどう認識し、どのように期待するかに焦点を合わせている。だが、われわれも海外を誤認していないだろうか。ヨーロッパの中心にあるスイスも、観光地としてだけ認識しがちである。このような誤認

ナビゲーター

を打破しつつ、日本への真の期待まで掘り起こしてみたい。以下はスイスのルジエロ・ウィズレル氏からの報告である。

2月16日にスイス政府は、コロナ関連規制の大部分を解

8 5

日本への期待 世界各地から

パンデミック遠のき、スイスは再開された

除し、ほぼ通常の生活に戻る事ができた。公共交通でのマスク着用や陽性者の強制隔離は3月末まで残るので、英国政府の決定ほど大胆でないものの、感染多発国で状況が改善されるという前提でほぼ世界中からの渡航制限が解除された。観光・レジャーもビジネスと同じように本格的に解禁された。

ビジネス上の優位性

やゴンドラに並ぶ際のマスク着用義務以外は、ほぼ通常通りに戻りました。ツェルマットのマッターホルン、ルツェルンのカベル橋、レマン湖のシヨン城、チューリッヒのクンスト美術館、スイス山岳鉄道沿線の有名スポットで、スイス観光が楽しめます。日本語があるスイス政府観光局のウェブで旅の計画をすることが出来ます。

せん。世界で最も豊かで近代的な国の一つであり、非常に安定した強い通貨、規制はガチガチでなく、先進国の中では比較的低税率です。実際、付加価値税は7.7%と低く、法人税は国と州税合わせて20%から28%、OECDの世界最低税率15%には完全に適合しています。

投資が一定条件を満たせば、住民税は交渉で数年にわたり無税となるなど、大幅な優遇措置を受けることが可能です。欧州の中心という戦略的立地、高度な技術と多言語

を理解する多様な労働力、経済競争力、比較的柔軟な労働市場など、給与や生活費は高くとも、欧州本社やグローバル本社、研究開発・高付加価値製造・知的財産保有センターにとつては最適です。

新しい新興企業が集まるクリプトバレーと呼ばれる地域がツーク州にあります。昨年8月、この類としては最も先進的な法律が制定され、DLTを明確に規制しつつイノベーションを可能にし、さらにスイス金融システムに統合することで、この優位性はさらに確固たるものになりました。

【リーム中産連】

(月曜日に掲載)